

災害への備えを高める

備える

防災公園・倉庫の整備

市内4箇所の防災公園に倉庫を整備（昆陽南公園、十六名公園、笹原公園、伊丹スカイパーク）。長期間保存可能な食糧（アルファ化米、ソフトパン、乳幼児用の粉ミルク等）や毛布、簡易トイレ、日用品等を備蓄しています。



飲料水兼用耐震性貯水槽の整備

大規模災害時における飲料水の確保のため、伊丹病院、伊丹小学校、神津小学校の3ヶ所に耐震性貯水槽（100m³型）を設置しています。大規模災害時における避難者の飲料水を確保することにより、災害時の市民生活の安定を図っています。

市立学校園・保育所（園）の耐震化100%達成

平成7年の阪神・淡路大震災以降、学校施設の耐震化に努めてまいりました。平成21年度からは、「学校施設の安全安心宣言」（平成20年9月1日）に則り、急ピッチで耐震化事業に取り組み、平成23年度末で学校施設の耐震化100%を達成。また、幼稚園施設、保育施設についてもそれぞれ平成25年度、平成27年度に耐震化100%を達成しました。

避難所井戸の設置

阪神・淡路大震災や東日本大震災では、水不足等による、不衛生なトイレを敬遠した避難者の体調悪化を招き、震災関連死の一因になりました。これに鑑み、災害時の避難所で必須となる生活用水を確保するため、今後、避難者の健康管理、衛生対策に資する防災井戸を教育施設に設置する予定です。



イメージ図

防災、減災を目的に50台の見守りカメラを設置 —防災の監視体制を強化—

本市で整備を進めております1,000台の安全・安心見守りカメラには、50台の防災用カメラがあります。河川や中心市街地等に整備することで大雨等の災害発生時の河川監視、迅速な初動体制や的確な動員体制の確立に役立っています。

さらに、主に河川を監視する目的で設置するカメラについては、インターネット配信し、市民の自助に役立っています。

ボランティアアプリにご登録を！



◆Android



アッチャン



◆iPhone

雨水対策の推進



<1> 金岡雨水貯留管

金岡雨水貯留管は、金岡雨水幹線（排水面積470ha）が溢れるのを防ぐために県道山本伊丹線（五号橋線）の地下10mに埋設された、直径7m、延長1,150mにわたる雨水貯留管です。本施設は、平成13年3月に供用を開始し、貯留量は40,000m³、大雨時に金岡雨水幹線が溢れそうになると取水口から金岡雨水貯留管に雨水が流れ込み、一時的に雨水を貯めます。降雨が止み、放流先河川の水位が低下してから貯めた雨水を徐々に放流先河川にポンプで排出します。上下水道局庁舎の1階に設置されている遠方監視装置により、一括してゲートの開閉状況や貯留管の滞水状況を監視しています。



<2> 瑞ヶ丘雨水調整池

瑞ヶ丘地区、瑞穂地区の浸水被害を抑制するため、雨水調整池を瑞ヶ丘野球場の地下に建設しています。平成17年3月に供用を開始し、貯留量は2,500m³となっています。

<3> 雨水ポンプ場

雨水ポンプ場は、放流先河川の水位が上昇し、水路の水が自然に河川に流れなくなった時にゲートを閉めて河川へ強制的に排水する施設です。河川水位より低い地盤の雨水排水をするために極めて重要な施設です。伊丹市では、6箇所の雨水ポンプ場を整備しています。



- 西野雨水ポンプ
- 湊雨水ポンプ場
- 鶴田雨水ポンプ場
- 中野東雨水ポンプ場
- 三平雨水ポンプ場
- 北河原雨水ポンプ場

事業所等との連携

災害時応援協定

災害時応援協定とは、行政機関と民間事業者、各種団体等または他の行政機関との間であらかじめ協定を締結し、災害時における人的・物的支援についての協力を確保するためのものです。大災害が発生した際の初期の対応として重要な、被災者への食料・生活物資の供給、緊急物資の輸送等を実施するためには、民間事業者などをはじめとした各種団体の協力が不可欠なものとなっています。

伊丹市では、迅速かつ広域的な災害対策を実施できる体制を構築するため、平成28年3月末現在、50を超える事業所などと協定を締結しています。



いたみ災害サポート登録制度

災害発生時の活動は、主に市などの防災機関により実施されますが、地域での「自助」・「共助」が、被害軽減、早期復旧には欠かせないものとなります。そこで、地域に密着した事業所等の持つ人材や資機材、技術などの協力により、共助体制の強化を図り、災害時の被害を軽減することを目的とした制度です。現在、伊丹市は30以上の事業所等にご登録をいただいています。